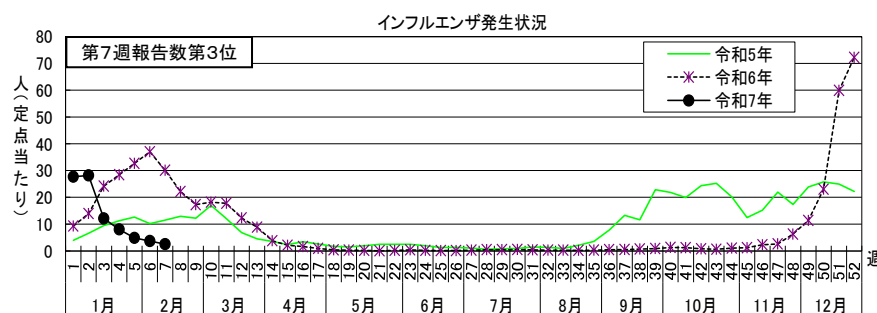
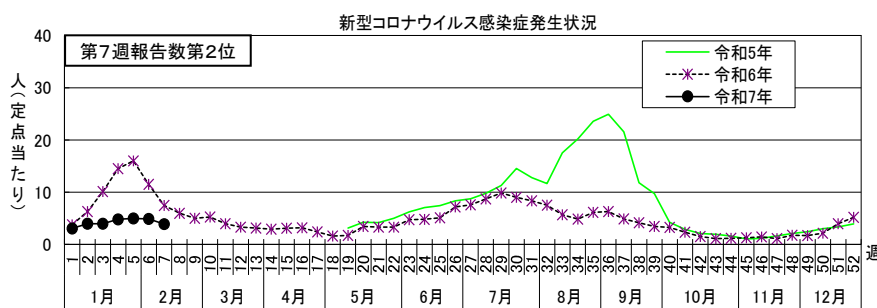
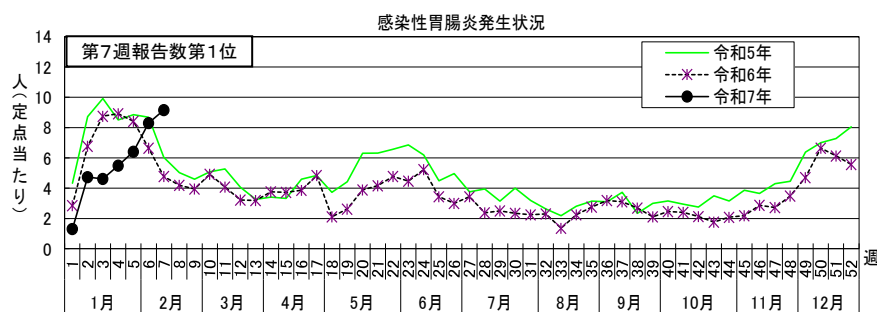


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和7年2月10日（月）～令和7年2月16日（日）〔令和7年第7週〕の感染症発生状況

第7週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）新型コロナウイルス感染症 3）インフルエンザでした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は9.16人と前週（8.30人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.89人と前週（4.90人）から減少しました。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は2.56人と前週（3.69人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



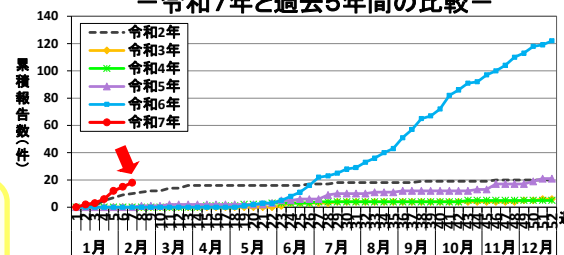
百日咳の報告数の増加が続いています！

百日咳は、特有のけいれん性の咳発作等がみられる細菌感染症です。川崎市における令和7年の患者報告数は、第7週（2月10日～2月16日）までに計18件となり、令和6年から引き続き報告数が増加しています。

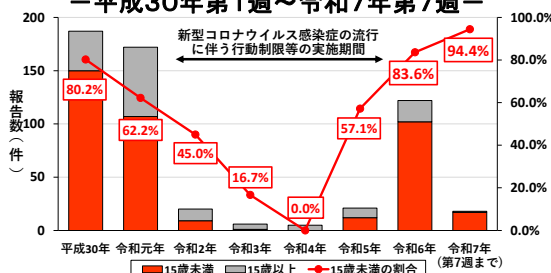
百日咳の患者の多くは15歳未満の小児であり、川崎市でも令和6年は83.6%、令和7年は94.4%と、小児が大部分を占めています。

新生児やワクチン未接種の乳児等は、感染すると重症化し死亡することもあります。予防にはワクチン接種が非常に有効ですので、定期接種の対象者の方は早めに接種を済ませましょう。

川崎市における百日咳の累積報告数の推移 —令和7年と過去5年間の比較—



川崎市における百日咳の年齢階級別発生状況 —平成30年第1週～令和7年第7週—



百日咳とは？

【感染経路】

咳やくしゃみ等による飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】

通常5～10日間（最大3週間程度）

【主な症状】

- ①カタル期：5～10日間の潜伏期間の後、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。
- ②痙咳期：短く激しい咳が連続して起こり、息を吸う時に笛のような音が出る特有の咳発作がみられる。
- ③回復期：激しい咳が消失した後、発作性の咳が続く。

【予防方法】

百日咳含有ワクチンの接種（5種混合ワクチン等）

